

New Style 防災

New Style disaster prevention

半田チーム A

柳原知弥, 竹島夕淑, 中島彩美, 加藤大成, 井上璃彩, 豊川茉実
指導教員 半田英俊

杏林大学 総合政策学部 総合政策学科 半田研究室

キーワード: 土砂災害, 非常食, 防災グッズ, 八王子市総合防災ガイドマップ

1. はじめに

都内で土砂災害警戒区域に指定されている場所のうち、およそ 3 割が八王子市に集中していることはご存知だろうか。都内、7800 カ所が自治体にハザードマップなどの作成が義務付けられている土砂災害警戒区域に指定されているなか、その 3 分の 1 に当たる、2172 カ所が八王子市に集中していると言う事がわかっている。その理由として、八王子市の地形が原因であると考えられる。



出典

https://www.jiban.co.jp/images/tips/kihon/ground/municipality/tokyo/hachioji/J13_hachioji.png

これは八王子市にとって大きな脅威であると言えるのではないだろうか。上記に伴い、八王子市では、現在、市内の住民に対して様々な働きかけや、啓蒙活動を行っている。市内のハザードマップ作成や、Twitterによる情報提供、防災訓練などの活動を実施している。

しかし、土砂災害対策として大きな効果が期待されている砂防ダムなどを市内全域に完備するには、莫大な費用と時間がかかってしまう。行政の公助だけでは防災には限界があると感じられる。

では、公助以外の自助と共助を高めていくにはどうすればいいのか。そこで私たちは、まず市民一人ひとりの自助をどのように高めるかというところに着目することにした。そして、そのために誰もが利用しやすい新しい防災の形、「New Style 防災」を私たちは提案する。

この提案により、八王子市民それぞれの防災の意識が高まり、自助を促すことに繋がるのではないだろうか。

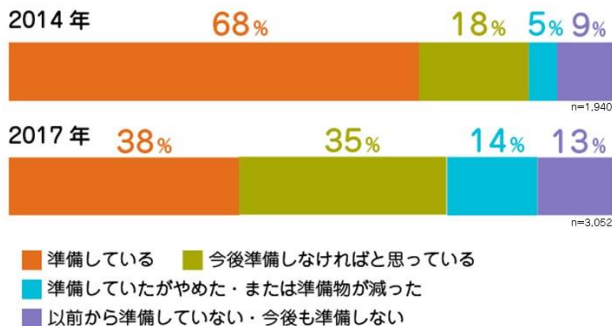
2. 提案内容

避難訓練などの行政による災害対策は見受けられるが、その対策は十分とは言えず土砂災害が頻発している。その結果、八王子市民に大きな被害を及ぼしている現状が続いているが、個人単位での対策は進められていなかった。

その原因として、「準備しなければならない」という意識があるものの、賞味期限切れや劣化が原因で、

非常食や防災グッズの保持率が減少していることが挙げられる。

Q：もしもの時のために防災グッズを準備している？



出典

(<https://community.lavidajp/lavidacom/article/blog/blog2/34983/>)

それを解決すべく、私たちはレンタル式の防災グッズや非常食を定期的に供給できるシステムを考案した。これを私たちは、新しい防災のあり方と位置づけ、「New Style 防災」として提案したい。

「New Style 防災」の特徴として、①防災グッズはレンタル式、②非常食は定期的に供給されるという2つが挙げられる。

レンタル式防災グッズは、レンタルを開始し、返却したいと感じたときには、未使用の場合に限り、先払いした金額から手数料を引いた額を返金するというものである。

逆に防災グッズを持ち続けた場合には、防災グッズの劣化に伴い、企業がメンテナンスを行う。そのため、各自の手間が省け、安心して子供の世代、そしてその次の世代へと受け継がせることが可能となる。

企業側のメリットとして、親から子への再契約がなされるため顧客を得ることができ、継続的な収益を上げることが可能となる。

非常食は定期的に届くシステムである。非常食の賞味期限は基本5年で、常に意識するのは難しく、買い替えるのが面倒だと感じるのではと考える。そこで私たちが考えた定期非常食のシステムは、賞味期限が近くなった非常食を企業が回収し、新しいものと取り換えに来るというものである。

例えば、自宅にあった賞味期限5年の非常食が、残り2か月で賞味期限が切れてしまった時、企業が新しい非常食を渡すために自宅を訪問する。その際に、食べた分の非常食はその分の集金をし、同時に賞味期限間近の非常食を受け取る。受け取った非常食は、企業が訳あり商品として販売、または被災地やフードバンクに配送するといったものである。

消費者側としては、使った分だけ支払い、定期的に非常食を交換してくれるため、手間が省け、無駄がなくなる。一方、企業側としては、寄付などによるPRのきっかけになり、非常食を常備してもらえることで顧客を独占できるなどのメリットが見込めるのではないかと考える。

基本的に、防災グッズは非常食とセットで販売されていることが多い。しかし、「New Style 防災」では、レンタル防災グッズ、非常食を別々に購入できるので、様々なニーズに応えられるというのも強みの1つであり、これによって防災グッズへの関心が高まり、自助の意識が高まるのではと考えている。

3. おわりに

以上みたように、八王子市において、避難訓練などの行政による対策は見受けられるが、個人単位での準備が進められていなかったことから、私たちはレンタル式の防災グッズや非常食の仕組みを考察した。

私たちが考える「New Style 防災」が八王子市民の方々に周知されることを望んでいる。これにより、賞味期限切れの非常食を無くし、防災グッズの所持率を上げることを目標として、一人ひとりが防災について高い意識を持ってほしいと考えている。

参考資料

<https://www.sankei.com/region/news/150910/rgn1509100012-n1.html>

http://www.sabopc.or.jp/share/share_category/research/

<http://www.bousai.go.jp/updates/h26tuyu/pdf/h26tuyu10.pdf>